

# 陸上で最も原始的なコケ植物に秘められた 進化の歴史を探る

教員名：秋山弘之

連絡先メールアドレス：akiyama<atmark>hitohaku.jp

## ◎ 研究の内容

コケ植物を対象に、日本や東南アジア各地（おもにインドネシア、タイ、マレーシア）の植物相の調査をしています。そして野外調査から得られた知見を軸に、それを発展させる形で分類学的研究も行っています。具体的には、アジア大陸東端に位置する日本列島弧における種分化の歴史を、形態や分子マーカを使って実証的に明らかにしようとしています。また最近は、日本にひろく分布するジャゴケという苔類を材料に、遺伝的分化についての研究をしています。



## ◎ 主な研究業績

- 1) Akiyama, H. (2017) Systematic study of the *Yakushimabryum* and related genera in the Pylaisiadelphaceae (Bryophyta). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 68(3): 145-174.
- 2) Akiyama, H., A. Schaefer-Verwimp, N. Printarakul, M. Suleiman, B. C. Tan, B. Goffinet, K. T. Yong & F. Mueller (2016) Phylogenetic study of the genus *Aptychella* (Pylaisiadelphaceae, Musci). *The Bryologists* 118(3): 273-283.
- 3) Akiyama, H. (2016) A re-examination of the identities of *Forsstroemia japonica* (Besch.) Paris and *Pseudopterobryum tenuicuspis* Broth. (Neckeraceae, Musci). *Bryological Research* 11(6): 157-166.
- 4) 『コケに誘われコケ入門』（2017）このは No. 7（図鑑部分を担当）文一総合出版
- 5) 『苔の話』（2013）秋山弘之 中公新書 中央公論新社

## ◎ 学生に向けて一言

コケ植物のような花の咲かない植物（隠花植物）は一見地味に見えますが、独特の進化の歴史が背景に有り研究材料として優れた特質をもっています。それだけでなく実用的な側面でも、コケ植物の小型で常緑性という特徴を生かし、室内グリーンとしても人気が高まっています。コケ植物を対象としてどんな研究でもOKですので、気軽に問い合わせしてみてください。野外調査中心でも室内実験中心でもどちらでも対応できます。